

特別展「久能山東照宮展（仮）」 開催概要（案）

1 名 称：「久能山東照宮展（仮）」

2 趣 旨

久能山東照宮は、徳川家康を「東照大権現」という神として祀る全国の東照宮の中で最も創建の古い神社である。江戸幕府を開き、天下太平の世の礎を築いた徳川家康は、元和2（1616）に駿府城で75年の生涯を閉じ、亡骸は遺言によりその日のうちに久能山へ移された。久能山東照宮には家康所用の甲冑や晩年の日常生活で使用した品々が伝来している。

江戸時代を通じて徳川将軍家の厚い崇敬を受けた同社には、歴代将軍が奉納した武具のほか、歴代将軍直筆の書画類などの宝物が所蔵されている。特に、歴代15代将軍全ての甲冑が揃って奉納され現在まで伝来していることは全国的にも類を見ない。

本展ではこうした貴重な宝物の中より、選りすぐりの名品の数々を一堂に展示するものである。徳川将軍家の美術工芸品を通して、江戸時代の武家文化の精髓を紹介したい。

3 主 催：仙台市博物館、東北放送、河北新報社

4 後 援：在仙マスコミ各社（予定）

5 会 期：令和7年（2025）9月12日（金）～11月9日（日）（開催日数50日）

※休館日：毎週月曜日（9/15、9/22、10/13、11/3を除く）、9/16、9/24

6 会 場：テーマ展示室Ⅰ、企画展示室、コレクション展示室Ⅱ

7 観覧料：一般1,600円、高校生・大学生1,200円、小・中学生800円

8 主な展示資料

- ・重要文化財 金陀美具足（徳川家康所用） 附 梨子地三葉葵紋牡丹唐草金蒔絵具足櫃
- ・重要文化財 齒朶具足（徳川家康所用）
- ・金扇馬標（徳川家康所用）
- ・重要文化財 太刀 切付銘 妙純傳持、ソハヤノツルキ／ウツスナリ（無銘 三池光世作）
- ・重要文化財 洋時計 スペイン・マドリッド製 ハンス・デ・エバロ作
- ・紺糸威鎧 兜・大袖付（8代将軍 徳川吉宗所用）等、2～15代の歴代将軍の具足14領
- ・国宝 太刀 銘 真恒 附 黒塗葵紋蒔絵刀箱（2代将軍 徳川秀忠奉納）
- ・枯木梟図 3代将軍 徳川家光筆
- ・一行書「発必中」 15代将軍 徳川慶喜筆 ほか ※いずれも久能山東照宮蔵

9 関連イベント

記念講演会、しろ・まち講座、ミュージアムセミナー、友の会広報セミナー、プレイミュージアムイベント など